

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
27-85	高等学校	地理歴史	地理B	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
130二宮	地B 305	新編 詳解地理B 改訂版		

1. 編修の趣旨及び留意点

編修の趣旨

本書は高等学校学習指導要領の地理Bの目標と内容に則り、以下の趣旨により編修した。

○ 現代世界を系統的側面・地誌的側面から捉える力の養成

現代世界の系統地理的考察（第II編）を通して地理的事象を地球規模で大観的にとらえた。また、現代世界の地誌的考察（第III編）を通して地域特有の事象や課題についてとらえた。そして、系統と地誌の知識を有機的に結びつけ、さらに日本についてとらえ直すことにより、現代世界の自然や社会・文化の多様性についての認識を深め、国際社会の一員としての自覚と資質を養えるようにした。

○ 地理的技能の獲得

地図と地理的技能（第I編）では、地図の読図や作図、資料の読み取りなどの地理的技能を具体的な事例を通して学習できるようにした。自ら課題を設定し、調査・考察し、主体的に社会の形成に参画できるようにした。

編修の留意点

編修の趣旨を実現するため、各単元において以下の点に留意して教材の構成と選定を行った。

- 現代世界での事象を幅広く階層的に取り上げることにより、地理的知識の着実な定着をはかった。学習した内容から多様な地域性をとらえる力を養い、地理的事象を正しく理解して、地球的課題の解決に向けて自ら行動できる力を培うようにした。そして、国際社会について偏りなく学習できるよう、系統・地誌ともに豊富な事例をバランスよく扱うよう心がけた。
- 系統の学習（第II編）では、世界的視野での学習の最後に日本の特色や課題を取り上げて深化をはかった。
- 地誌の学習（第III編）では、その地域の歴史的背景を踏まえるとともに、地域の特色や課題を映し出す内容を取り上げた。

2. 編修の基本方針

教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために、以下の方針により編修した。

- 地理的知識の修得とともに、世界的視野から環境の多様性や国際情勢をとらえ、現代社会のかかえる地球的課題の解決を担う素養を身につけさせるようにした。
- 情報化の進展や国境をこえた経済活動などの著しいグローバル化社会の変化を理解するとともに、持続可能な循環型社会をめざし、自ら社会に参画する能力や態度の育成をはかるようにした。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
教科書全体について		
教科書導入部「地理を学ぶことの意義」 おわり「地理学習を活かした社会への参画」	グローバル化が進み、国境をこえた経済活動や交流が広がる現在、民族的・地域的の差異を理解することはたいへん重要である。地理学習により基本的な知識を得、自分なりの見方・考え方を確立することが社会参画への大切な素養となることを、教科書の導入部とおわりに記載した（第一号）（第二号）（第三号）。	iii, p. 316
各編の中扉	地理的技能、系統地理的考察、地誌的考察と段階を踏んで学習するにあたり、各編の冒頭で、この編で学ぶ地理的知識とその位置づけを提示するようにした（第一号）。	p. 5, 31, p. 181
各節冒頭の導入文	各節冒頭に、学習を始めるにあたって題材がイメージしやすいように、身近な話題や問いかけを行う導入文を置いた（第一号）。	各節冒頭
問いかけの設定	欄外や図表・写真に問いかけの欄を適宜設けて、学習したことをさらに調べたり、自分の考えをまとめたりする機会を設定し、自らの調べ学習によって学習を深め、幅広い知識や教養を得られるようにした（第一号）。	全体
「ポイント補説」コラムの設定	テーマに沿って、さらに学習を深めるコラムを置くことで、自主的に学び、興味を喚起するよう工夫した（第二号）。	全体
自然災害関連の記述	東日本大震災や多発する世界の自然災害を受け、自然の恵みと脅威が共存する日本について学習するよう、各分野で、現象の要因や被災状況、課題や防災への心構えなどについての記述を行った（第四号）。	p. 38, 39 55, 62, 80, 81, 109, 306, 311

第 II 編 現代世界の系統地理的考察		
系統地理的学習全体	世界的視野から環境の多様性や国際情勢をとらえ、現代世界のかかえる地球的課題の解決を担う力を養成する。特に、環境問題、食料問題、資源・エネルギー問題、人口問題、村落・都市問題など、先進国・発展途上国それぞれの立場の違いを考え、解決に向けて国際協力する重要性を理解させる（第三号）。	第 II 編全体
第 II 編第 1 章 自然環境	世界にさまざまな自然環境が存在することを、地形・気候の成因論から整理・理解し、各気候区ではどのような暮らしが行われているかを考察させる（第一号）。	p. 32 ~ 81
第 II 編第 1 章 4 節 環境問題	地球温暖化・砂漠化・森林破壊・大気汚染などの現状や背景、国による立場の違いなどを理解させ、解決に向けての国際的な動きとともに、NGO や NPO の自発的な活動についても捉えさせる（第三号・第四号）。	p. 82 ~ 87
第 II 編第 2 章 資源と産業	情報化やグローバル化が進み、国境をこえた農業・資源・工業・貿易などが盛んになり、国家間の競争や協力とともに、地域統合や企業連携など新しい動きがみられる。各分野の具体例を通して、世界の経済的な動きの現状と課題を理解させる（第二号）。	p. 88 ~ 139

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第 II 編第 3 章第 1 節 3 人口減少地域の人口問題	少子高齢化現象をふまえ、男女平等の自由な働き方や女性の社会進出を前提としたワークライフバランスを取り上げ、社会のあり方を考えさせる（第三号）。	p. 147
第 II 編第 3 章第 2 節 5 日本の村落・都市の課題	日本の高齢化や若年労働力の流出によって、農村地域の過疎化や小規模都市の人口減少が進んでいる。行政や市民が一体となり、地域の魅力を活性化につなげる地域づくりについて考えさせる（第三号）。	p. 162, 163
第 II 編第 4 章 生活文化と民族・宗教	写真や世界の分布図を中心に、地球上にはさまざまな言語・宗教・文化をもった人々が暮らしていることを捉えさせる。世界のおもな宗教・言語を理解させるとともに、多民族国家など国家と民族は一致しないことも多く、民族固有の文化を尊重することがたいせつであることを理解させる（第五号）。	p. 164 ~ 173
第 II 編第 4 章第 3 節 民族と国家	民族問題・領土問題には、少数民族の独立や言語・宗教対立、資源をめぐる領土問題、難民など多様な背景がある。現在進行している紛争の背景や要因について、理解させ、国際社会の安定について考えさせる（第五号）。	p. 174 ~ 180
日本の領域と領土問題	日本の位置を認識させるとともに、日本固有の領土である北方領土問題や竹島問題について学習し、今後とも他国と尊重しあう態度を養う（第五号）。	p. 178
「世界の中の日本」特設ページ	各系統学習の区切りに、日本の特色・課題を捉える「世界の中の日本」を設定した。世界の学習をふまえて、例えば、日本の食料自給率、自然エネルギーへの転換、産業空洞化の克服など、現在、日本がかかえる課題と解決への動きについて、具体例を通して理解させる（第三号）。	p. 48, 80, 102, 113, 126, 134, 139, 148, 162, 178

第 III 編 現代世界の地誌的考察		
地誌学習全体	世界の諸地域について、13の事例を取り上げ、バランスよく学習する。各地域の自然、産業、文化などから、地域的特色を具体的にとらえ、それぞれの背景にある歴史的な流れや課題、日本との関係を理解し、国際理解を深める（第一号）。	p. 186 ~ 305
各地誌節末の「地球的課題」特設ページ	第 II 編の系統地理的考察での世界規模での学習を受け、地域で特徴的にみられる地球的課題を具体的な現象や事例を通して学習する。課題解決のために、その地域だけでなく、日本が国際社会に対して協力できることについても考えさせる（第三号）。	p. 196, 205, 217, 226, 235, 245, 259, 263, 271 284, 293
比較地誌学習 第 III 編第 2 章第 8 節 ドイツとポーランド 第 III 編第 2 章第 12 節 オーストラリアとカナダ	同じ EU に所属する隣国ドイツとポーランド、離れた位置にあるオーストラリアとカナダは、歴史的背景や産業、経済発展など、それぞれ共通点・相違点をもつ。項目ごとに比較しながら、それぞれの地域の特徴について理解を深める（第一号）。	p. 260 ~ 263 p. 296 ~ 303
「地域をみる」特設ページ	地誌で取り上げた 13 地域以外にも、国際関係や資源などにおいて特色のある近隣地域がある場合は、その節の末尾にページを設けて解説を行い、その地域の全体像を補足できるようにした（第一号）。	p. 197, 227, 285, 294, 304, 305

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
地域の将来像を描く →津波に備えた地域づくり	自然の恵みが豊かな半面、自然災害の多い日本では、安全に暮らせる災害に強い国土づくりが求められる。東日本大震災を受け、「津波から人々を守る地域社会づくり」について、国・自治体・住民の立場それぞれから、できることを調べ、提言としてまとめた事例を掲載した。「地域社会づくり」の一事例として、自分たちの地域での課題学習を進めるの例として掲載した（第二号）。	p. 310 ~ 311
課題「持続可能な農業の育成」	日本の食料自給率を上げるため、輸入依存の問題点と国内生産の問題点について、統計や話し合いでの整理を進め、持続可能な農業の育成について、自らの考えをまとめる事例を掲載した（第二号）。	p. 312 ~ 315

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 大判紙面に、本文・テーマと関連する主題図・写真・設問・用語解説・コラムなどを掲載し、資料性の高い紙面になっている。生徒自らが、学習しやすいよう、有機的に視覚的に配置した。
- 全般にわたり、多様で幅広い題材を扱うことで内容を充実させ、知識の修得を確実にできるようなにした。一方、文章の表現を正確にわかりやすくするとともに、振り仮名を豊富につけるなど読みやすいようにした。
- 系統分野・地誌分野が相互に補完できるよう、関連ある内容や地理用語には該当箇所を示す参照ページをつけた。用語解説や地域事例など、円滑に参照しあえるようになっている。
- カラーユニバーサルデザインを考慮し、色覚特性を持った生徒にも分かりやすいものとなるよう心がけた。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
27-85	高等学校	地理歴史	地理B	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
130二宮	地B 305	新編 詳解地理B 改訂版		

1. 編修上 特に意を用いた点や特色

本教科書は高等学校学習指導要領「地理B」の目標および内容に基づき、以下の趣旨に沿って編修しました。①地図に関する知識の習得および地域調査を通しての実践（第I編）、②自然環境を中心とした系統地理的な国際理解（第II編）、③世界各地域に見られる地域事象の固有性とその相関性を通して、自ら考える力の涵養（第III編）。

1) 大判紙面を有効活用, 高校生が自ら学びやすい資料性の高い紙面構成になっています。

衛星画像・空中写真
実際の姿を上空から大観できるよう衛星画像・空中写真を収録しました。

見本紙面 (p. 56, 57 気候)

主題図
図, 本文を相互に結びつけ, 理解を深めます。

模式図
文章だけの理解が難しいものは, 模式図で補足するようにしました。

ことばの整理
重要な地理用語のうち混同しやすい類似語・対義語の定義を整理しました。

ポイント補説
さらに深めたいテーマや最新事情などを取り上げて本文を補足します。

① 本文をサポートする主題図・写真・設問・欄外解説・コラムなどを豊富に掲載しました。

ことばの整理 (全 69 項目) 例 砂州と砂嘴, 土地生産性と労働生産性, FTA と EPA
ポイント補説 (全 35 テーマ) 例 地球史がもたらした資源, 高潮のしくみと被害

② 主題図は, 最新事情をあらわす図を採用するとともに, 模式図や新旧比較, 航空写真などを取り入れました。

③ 写真は, 世界の諸地域ごとに特徴的な暮らしぶりや人々の表情が映っているものを中心に掲載しました。

④ 高校生が自ら読んでよく理解できるよう, 全体を通して文章表現を整えました。

2) 最新事情を反映しました。

① 自然災害関連の記述を充実

東日本大震災や、近年世界で頻発する自然災害を受け、現象の特徴や要因、実際の被害や対応、課題、防災への心構えなど、多角的に学習できるようにしました。

[地形] 大地の急激な変動 ―地震と火山 (p. 38, 39), ハザードマップを読む (p. 55)

[気候] 気候変動と異常気象 (p. 62), 日本の気候と自然災害 (p. 80, 81)

[資源・エネルギー] 福島第一原子力発電所の事故と原子力発電の今後 (p. 109)

[持続可能な社会に向けて] 地域の将来像を描く ―津波に備えた地域づくり (p. 311) など

② 動きの激しい産業や経済, 国際関係の動向を反映

例1 世界農業の動向 (p. 94, 95)

アグリビジネスによる農業支配や農産物の国際価格への影響力, 遺伝子組換作物やバイオエタノール生産など高度化する農業技術, 貿易拡大と自国農業保護の動き, 国境をこえた農業投資など, 国により異なる立場と現状を解説しました。

例2 世界の食料問題 (p. 100, 101), アフリカの人口増加と食料自給 (p. 245)

近年, 発展途上国の所得向上や, 畜産物の需要増による飼料としての穀物需要増, 及びバイオ向け燃料の増加により, 食用穀物の供給を圧迫しています。またアフリカでも経済が発展し都市人口は増加していますが, 農業は輸出用作物が中心で, 主食用穀物は乏しく, 生産や流通体制の改善が求められています。食料問題と改善に向けた取り組みについて解説しました。

例3 持続可能な新しいエネルギー (p. 109), 資源・エネルギーをめぐる課題 (p. 112)

エネルギーの枯渇や地球温暖化, 原子力発電所の事故などを受けて, 持続可能な新しいエネルギーへの転換が求められ, さまざまなエネルギー技術の開発が進められています。また, 資源を消費する側からもゼロエミッションや都市鉱山などの省エネ・リサイクルの動きが広がっています。エネルギー事情は各国ごとに異なることを踏まえ, 現状と課題を解説しました。

例4 グローバル化する工業生産と多国籍企業 (p. 122 ~ 124)

企業が国境をこえ, 複数の国にまたがって生産活動を行う多国籍化が進む現在, 企業内でどう地域間分業を進め効率化をはかるか, また現地化にはどのような問題点があるか, 企業間競争がさらに激しなった際, 企業同士が生産・流通・販売などでどう連携するか, などについて解説しました。

例5 日本の村落・都市の課題 (p. 162, 163)

日本では東京への一極集中が進むとともに, 地方圏では小規模な都市を中心に人口減少傾向が強まっています。高齢化や若年労働力の流出により地域経済の衰退がみられるなか, 地域の活性化をめざし, 伝統的な歴史施設や自然景観といった地域の魅力の創出や地域ブランドの確立, コンパクトシティの実現などの動きが活発になっていることについて解説しました。

3) 地理的技能の修得に向け、技能コラムや新しい地図を充実させました。

① 地理的スキルコラムの充実

地理的スキルページを充実し、それぞれの分野の学習で必須となる地理的スキルを修得しながら、学習を進められるようにしました（全 18 コラム、数字はページ数）。

[世界図関連] 世界地図の「読み方」、時差とサマータイムの計算

[主題図関連] 統計地図の見方・あらし方 (2)、GIS を使って地図をつくろう、

農産物の生産・輸出を読む、分布から工業の立地指向を読む、三角グラフと散布図を読む

[地形図関連] 電子地図の活用、地形図の読み方 (2)、地形図を読む (5)、

新旧地形図で読む村落の都市化、地形図で読む村落の機能と形態 (2)

[気候関連] 気候区の判定、雨温図とハイサーグラフ

[写真関連] 写真で読む自然環境—世界一流量の多いアマゾン川、住居の写真から読む自然環境

[その他] ハザードマップを読む、地域の将来像を描く—津波に備えた地域づくり

② 電子地図など、新しい地図についての記述を充実

学校に地図や画像を閲覧できるインターネット環境が整い始めたことに伴い、Google Earth (p. 6) やカシミール 3D (p. 21)、地理院地図 (p. 23, 27) などを紹介しています。従来使われてきた 2 万 5000 分の 1 地形図については、電子国土基本図が整備され、新しい図式での地形図の更新も始まっているため、電子地形図 25000 の画像や新しい図式の変更点、新旧の表現の比較などを掲載しています。

③ 実際の姿を空から大観できるよう衛星写真や空中写真を充実

地形の俯瞰や土地利用、町の形態、地図との比較など、衛星画像や空中写真は地理的事象を大観するのにたいへん役立ちます。インターネット環境を使った授業では、導入に利用されることもあるため、教科書でも積極的に画像を取り入れました。

前見返し 口絵 「空からみる世界の農牧業」

商業的農業、自給的農業の規模・生産力の違いや、気候環境と農作物の関係を空中写真をを使い理解する。

[衛星画像の例] 大山脈と平原 (p. 33)、ナイル川の円弧状三角州とミシシッピ川の鳥趾状三角州 (p. 42)、タウンシップ制にもとづく散村 (p. 151)、道路網からみた都市の形態 (p. 157)、人工衛星からみた北極海の氷分布の減少 (p. 271)、伐採による熱帯林の裸地化 (p. 293)

[空中写真の例] 黒部川扇状地と飛驒山脈 (p. 40)、蛇行河川 (p. 41)、砂嘴 (p. 44)、偏西風を利用した風力発電施設 (p. 74)、混合農業地域の農地 (p. 91)、大規模な露天掘りの鉄山 (p. 110)、大型ショッピングモール (p. 136)

④ 欄外と図表・写真に、適宜「問いかけ」を設定

学習したことを確認したり、さらに自分の考えをまとめたりする「問いかけ」欄を設けています（全 52 欄）。

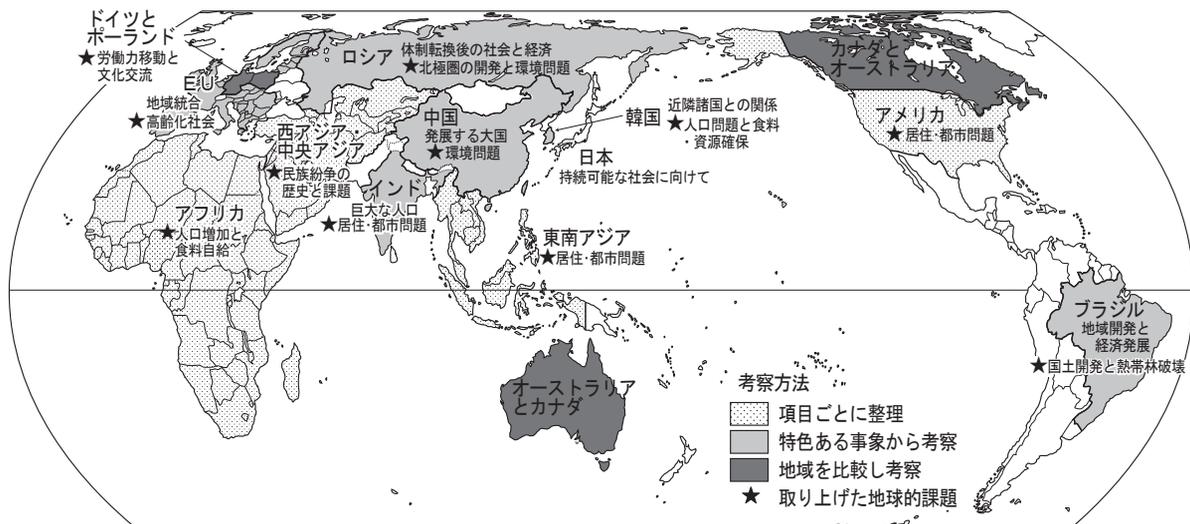
4) 第Ⅱ編 系統地理的考察 と 第Ⅲ編 地誌的考察 の知識を体系的に整理

① 第Ⅱ編の各系統項目の節末に、日本の特色・課題を捉える「世界の中の日本」を設定しました。

世界の学習を踏まえたうえで、例えば、農業では「日本の食料自給率向上について」、エネルギーでは「持たざる国日本の課題」、工業では「産業の空洞化とその克服」など、これまでの経緯や現状、解決への課題など、日本がかかえる課題について学習します。

- | | |
|------------------|----------------|
| ○日本の地形と自然災害 | ○日本の気候と自然災害 |
| ○日本の農業と課題 | ○日本の資源・エネルギー問題 |
| ○グローバル化のなかの日本の工業 | ○日本の貿易と投資 |
| ○日本の観光 | ○日本の人口問題 |
| ○日本の村落・都市の課題 | ○日本の領域と領土問題 |

② 第Ⅲ編では世界の諸地域を偏りなく学習できるよう、さまざまな規模にわたる13地域をバランスよく取り上げました。①項目ごとに整理、②特色ある事象を中心に考察、③2国の対照性・類似性から着目、の3方法で考察しています。また、地域で特徴的な地球的課題を具体的に取り上げ、現状や課題の所在、解決の方法について記述しました。



第Ⅲ編の地誌的考察で扱う国・地域と考察方法、地球的課題

③ 地誌の13地域に取り上げられなかった地域について記述する「地域をみる」コラムを設けました。

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| ○香港・台湾・モンゴル | ○世界の4分の1の人々が暮らす南アジア |
| ○NAFTA（北アメリカ自由貿易協定） | ○ラテンアメリカの農牧業・水産業と鉱産資源 |
| ○イギリス人が植民し開発したニュージーランド | ○オセアニアの島々と環境問題 |

④ 第Ⅲ編の最終章では、これまでの地理学習のまとめとして、日本について改めて捉えなおします。具体的なテーマを設定して、今後の日本の国土像、地域の将来像を描き、課題解決に向け、自ら考え行動する力につなげます。

- | | | |
|------|------------------|----------------------|
| 日本の姿 | ○自然の恵みと脅威が共存する環境 | ○輸入に依存する日本・輸出に依存する日本 |
| | ○人口減少時代の居住問題 | ○グローバル化時代を生きる |

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
第Ⅰ編第1章 地理情報と地図 第1節 世界観の変化と地図 第2節 地球儀と世界地図 第3節 地理情報の地図化	(1) ア 地理情報と地図	p. 6 ~ 21	7
第Ⅰ編第2章 地図と地域調査 第1節 地図の活用 第2節 身近な地域の調査 -長野市を例に	(1) イ 地図の活用と地域調査	p. 22 ~ 30	3
第Ⅱ編第1章 自然環境 第1節 地形 第2節 気候 第3節 自然と生活 第4節 環境問題	(2) ア 自然環境	p. 32 ~ 87	25
第Ⅱ編第2章 資源と産業 第1節 農林水産業 第2節 資源・エネルギー 第3節 工業 第4節 流通と消費	(2) イ 資源・産業	p. 88 ~ 139	24
第Ⅱ編第3章 人口と村落・都市 第1節 人口 第2節 村落・都市	(2) ウ 人口, 都市・村落	p. 140 ~ 163	11
第Ⅱ編第4章 生活文化と民族・宗教 第1節 衣食住 第2節 言語と宗教 第3節 民族と国家	(2) エ 生活文化, 民族・宗教	p. 164 ~ 180	9
第Ⅲ編第1章 現代世界の地域区分	(3) ア 現代世界の地域区分	p. 182 ~ 185	2
第Ⅲ編第2章 現代世界の諸地域 第1節 中国 第2節 韓国 第3節 東南アジア 第4節 インド 第5節 西アジア・中央アジア 第6節 アフリカ 第7節 EU 第8節 ドイツとポーランド 第9節 ロシア 第10節 アメリカ 第11節 ブラジル 第12節 オーストラリアとカナダ	(3) イ 現代世界の諸地域	p. 186 ~ 305	55
第Ⅲ編第3章 現代世界と日本 第1節 世界の中の日本 第2節 持続可能な社会に向けて	(3) ウ 現代世界と日本	p. 306 ~ 315	4
		計	140